



ダイヤモンド
シティ
小美玉
見つける。
みがく。
光をあてる。

小美玉の今を伝えるマガジン

広報
**おみ
たま**
第179号

2021年
February

2

contents

[特集] 暮らしも仕事も私らしく。	2-5
コロナ禍の成人式	6-7
新ごみ処理施設オープン	8-9
わだい	10-14
TOPICS	15-18
四季の歌	19
4コマ小美玉暮らし	20

Special Feature

暮らしも仕事も私らしく。



広報
おみたま
第179号



私の成長

暮らしも仕事も私らしく。

激変した社会。

「その人にあった暮らし」や

「時間の使い方」を改めて考える機会が増えています。

自分らしくいられる場所。自分らしい生き方。

自分の目的に合った働き方を選ぶことができる時代。

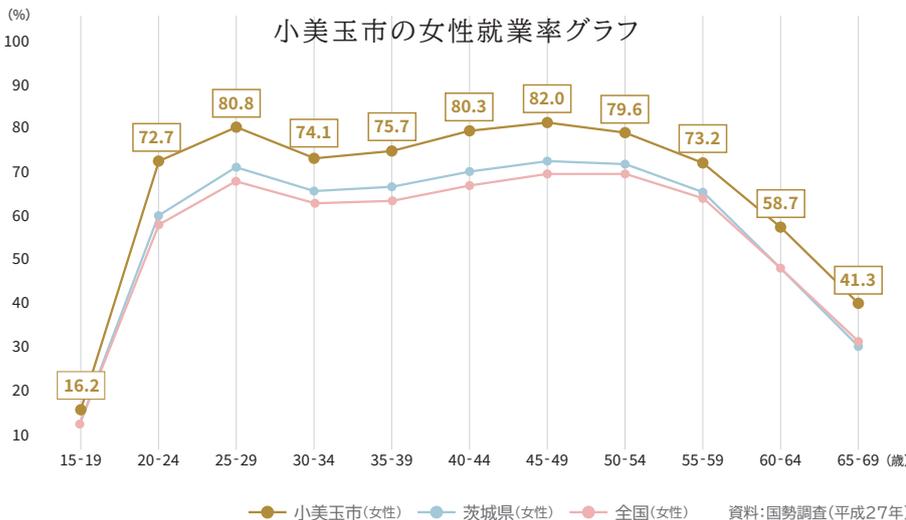
家族を大切にしながら、自分が成長できる場を、

小美玉市にたくさん生み出していきたいでしょう。

今月の表紙



「保育園のお迎えは、近所に住む母がやってくれています」という間弓さん。夫婦ともにサービス業で休みがなかなか合わないそうです。だからこそ「みんなが揃う休日を大切にしています」



特集記事取材・撮影
広報おみたま取材チーム



国、県と比較して、就業率が高くなっています。結婚・出産を機に一度下がり、育児が落ち着いた頃に上昇する、いわゆる「M字カーブ」を示しており、国、県と同様な形になっています。

しなやかに生きる茨女たち

地元へのUターンを考え始めたことがきっかけで、「茨女」の活動を始めました。地元を出た茨城出身の女性は何を考えているのか、茨城にUターンした人はどんな生き方をしていくのかを知りたかったからです。「女性活躍」がしきりに言われますが、今でも十分、たくさんの女性が活躍していると思います。取材を通してたくさんの方に出会いました。生き生きしている人たちの周りには、家庭や職場に支えてくれている人がいて、うまく頼りながら、しなやかに生きています。

出産後に職場復帰するロールモデル

が職場に当たり前にいることは素晴らしいです。価値観はますます多様になっています。コロナ禍で暮らし方や働き方を見つめ直した方も多いと思いますし、自分の価値観が尊重されるかどうかにより重要になっていきます。制度を整えることも大事ですが、お互いの思いやりこそが社会には必要不可欠だと感じます。

素敵な大人の背中を見せよう

子どもたちには「将来こういうことをやりたい」と思えるような、素敵な大人の姿を見せることが大事なのではないでしょうか。私にとっては美術予備校での絵の先生がそうでした。

川井 真裕美さん

グラフィックデザイナー・イラストレーター。「茨女」編集長。多摩美術大学情報デザイン学科卒業後、デザイン制作会社や企業のインハウスデザイナーとして勤務。2013年11月から、「茨女」の活動を開始。2014年にフリーランスとして独立し、2016年に株式会社MITOCREATIVEを立ち上げる。



Interview | インタビュー

互いへの思いやりで みんなが生きやすい社会に

習い事や地域活動など、子ども自身が選んだ世界にいる大人は、その子に大きな影響を与えるキーパーソンだと思います。地域の大人の皆さんの何気ない一言が、子どもたちの人生を決めることもあるかもしれませんね。

いばじよ フリーマガジン「茨女」

茨城県出身の女性を応援するメディア

2015年創刊。年2回、3月・9月に発行。茨城ゆかりの20~30代女性の編集部がつくる“茨城県出身の女性を応援するメディア”。一人ひとりの人生を応援し、「あの人のようになりたい」と思われる人物を取り上げ、読者に活力や勇気を与えたいという思いで活動。



小美玉市役所本庁、茨城空港、小美玉観光協会、みの〜れで手に入ります。

いばらきコープ生活協同組合

政策・CSR推進室

Ayumi Kageyama

影山 歩美さん

2005年入協。2児(4歳・2歳)の母。現在時短勤務中。



産休・育休を2子続けて3年取得しました。仕事を続けたいけど、子育てもちゃんとやりたいという夢を職場で受け止めてくれました。まだ子どもが小さいので、子どもが熱を出したりした時は、遠慮なく相談して調整できるので助かっています。

子育てと両立の中での 気付きを活かす

影山さんには、県内の産地やメーカーで製造された商品から、組合員の皆さんの要望に応える商品を探し、紹介することを主に担当していただいています。子育てと両立しながら働いているからこそ気付くことを仕事の中に活かし、成果につなげています。生き生きと働く姿勢に周りの職員が元気をいただいています。



松尾 掌さん
(政策・CSR推進室)

茨城トヨペット株式会社

営業課

Junko Mayumi

間弓 順子さん

2005年入社。2008年より正社員。1児の母。現在はフルタイム勤務。



女性の立場を大切にしてくれる職場で、産休・育休を取得する女性が大変多いです。私自身も取得し、スムーズに職場復帰を果たす事が出来ました。子どもの体調不良や行事等、休みの相談も快く受け入れてくれ、周りの方々に本当に助けられています。

「頼れるママ」的存在のコントロール役

間弓さんは、産休・育休後に職場復帰し、仕事と家庭の両立を上手くされています。当店舗で唯一の女性スタッフという事もあり、店舗内では、まさに「頼れるママ」的な存在で全体をコントロールしてくれています。同世代の子どもがいるスタッフも多く、お互いに助け合いながら業務に取り組んでいます。



金子 直樹さん
(営業課)

私を 成長させて くれる職場

小美玉市
くるみん認定
企業紹介



くるみん認定企業

1. 子育てサポート企業を証明する厚生労働省のお墨付き
2. 認定を受けるためには10の認定基準を満たす必要がある
3. 認定マークは、商品やHPなどに付けることができる

くるみん設立の大きな理由は、長年にわたる出生率の減少。法律により、企業は子育て支援に関する行動計画を作成する義務があり、若い働き手も子育てに配慮された職場を重視します。くるみんの認定を受けるには、「75%以上の女性社員が育児休業を取得している」「短時間正社員や在宅勤務などの制度・措置がある」などの条件をクリアする必要があります。

株式会社 常陽銀行



美野里支店

Mayumi Ohkubo

大久保 真弓さん

2008年入行。現在は個人向けローンを担当。3児の母。



3度目の育休中に夫の海外赴任に帯同し渡英。育休終了時に配偶者休職制度を利用して1年ほど休職。復職後は時短勤務を経て現在は通常勤務をしています。女性の休職や復職に対して非常に柔軟な制度があり、働きやすい環境にあります。

安心して長く働き続けることができる職場

当行では、子育て支援やライフスタイルに合わせたキャリア形成支援、ワークライフバランスの充実にに向けた取組みなどを通して、安心して長く働き続けることができる制度・環境づくりを行っています。女性行員ならではの細やかな感性や気配りを活かし、さまざまな部署で多くの女性行員が活躍しています。



小林 仁美さん
(人事部人材戦略開発室)

美野里デリカ株式会社



製造部

Megumi Ozawa

小沢 愛さん

2011年入社。2児の母。趣味はTV鑑賞。



2人の子どもを育てながら仕事しています。昨年7月、主任に昇格できました。これも家庭・職場のサポートがあったからです。今まで助けてもらった分を恩返しできるように、私自身の経験を活かしながら仕事に貢献できれば良いと思っています。

明るく楽しく前向きな職場で 実力発揮

小沢さんは、当初はパートとしてのお入社でしたが、研修・昇格試験を経て正社員となっています。現在、製造管理業務を担当しています。数十名のパートさんを1ヶ所に集めて指示をしている姿をみると頼もしいです。今後も、このような方が実力を出せる「明るく楽しく前向きな」職場環境の維持に努めます。



小田 光孝さん
(管理部)

水戸信用金庫



美野里支店

Saori Takeda

竹田 さおりさん

2001年入庫。2児の母。趣味は読書。



2人の子どもがいます。2度の産休・育休と、2人目の時には時短勤務も活用してもらいました。仕事と子育ての両立は大変ですが、こうして続ける事ができているのは、金庫全体が子育てに対して理解があり協力的だからだと感謝しています。

子育てしながらキャリアアップしている あこがれの存在

竹田さんは子育てしながらキャリアアップしているあこがれの上司です。私は窓口でお客様対応をしています。竹田さんは、難しい、また大変なお客様の手続きを率先して引き受けてくれます。どんな質問にも優しく答えてくれる頼れる存在なので、安心して仕事ができます。明るく丁寧な対応も私のお手本です。



川俣 泰代さん
(美野里支店)